

若山陽子（前名取市メイプル館主管）

2011. 3. 10 娘の第一希望大学の不合格の発表があった。そして、翌日3. 11、彼女は高校にその報告に行った帰りに仙台駅近くで東日本大震災を経験した。後期試験で受験予定の大学は震災のために入試は実施されず高校の内申点だけで合格の連絡がきた。しかし法曹界での活躍を目指す彼女の決断は、中央大学への進学だった。多くの方々の死を目の前に3年での早期卒業を果たし、現在は最高裁判所 司法研修所 第71期 司法修習生として目標に近づいている。震災により負の影響を受けた方々も多いが、そこから自分を律し成長した人々もある。私たちは、緊急支援から始まり、復興支援を経て現在のコミュニティ再生支援の活動へと繋がった。震災以降多くの方々が被災地へそれぞれの得意とすることで応援をしてくれている。NPOハロードリームの支援もその中の一つである。私も娘もずっと国際交流で培ったもの、人脈を使い、被災地で希薄となった世代間交流等の活動を強化している。若い子育て世代は内陸部の安全な場で住みたい、祖父母の世代は故郷に再建された復興住宅に戻りたい、という基本的な流れがある状況下だが、従来地域で行っていた四季折々の行事を継続開催し、人々が再開する場を提供し高齢者からの子どもたちへの声かけ、子どもたちが年長者への尊敬の念が生まれる場などを見ながら我々も一緒に育んでもらっている。私たちは一男一女を育てたというよりも、二人のお陰で親として、人として一緒に成長させてもらってきた。小学校の卒業時に友人がお父さんの勤務で上海へ移ったときに、娘が上海に会いに行きたいと希望し「試験で一番になったらご褒美で行こう!」と言えば、入学し、即クリア。「ごめんさい。そう簡単にクリアされると思わなかったから。3回に変更していい?」と言うと、怒りもしないで「そうだね3回が妥当かな!」と答えそれもクリア。従って、北京・上海の旅に出かけ、彼女はホームステイをし母も便乗し中国を楽しませて貰った。家族での旅とは別格の高校生でのテキサスのホームステイが一番の学びの場だったと彼女は言う。目指す弁護士からの助言、トラクターを運転させてくれたホスト、全ての経験があって彼女の現在がある。司法修習では社会人として働きながら深い経験を積んで合格された方々から学ばせてもらうことを一番の楽しみにしている娘、彼女に恥じないよう私も努力しよう。



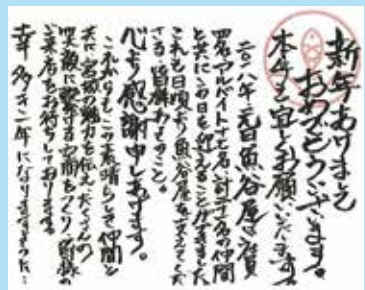
若山陽子 若山優華
司法修習のための部屋を借りに行った函館の旧函館区公会堂ハイカラ衣裳館にて

お客様のアリガトウを目指して

相澤和久(名取市被災者)

農業機械メーカーに入社し、約3ヵ月の研修期間を終え、7月に配属となり、早2年が経ちました。入社当初は、社会人生活が始まるという期待と慣れない環境に対する不安で胸がいっぱいだったことを懐かしく思います。良き同期に恵まれ、研修期間中には切磋琢磨し合い、資格取得に対し励んだり、研修時間外では遊びに、飲みにも様々な事を分かち合いました。自宅に近いところにある整備センターに配属になり最初にぶち当たった壁は一つの物事に対して、理解・行動できなかつたことでした。私は、この問題を克服するために、メモをしっかりと取る事やどのようなやり方で仕事をしているかなどを見て、覚えることで克服することができました。また、上司や若手の人とのコミュニケーションがうまく取れなかつたこともありました。しかし、仕事やプライベートなどの話題をしたりと、コミュニケーションが密に取れるようになりました。まだまだ未熟者ではありますが、日々の業務の中で一つでも多くの知識と技術を身につけ経験を積み重ね成長していこうと思います。そして、お客様サービスを大切にし、お客様に「相澤、アリガトウ」と言ってもらえるように一生懸命頑張っていきます。

東京・中野に宮城漁師酒場・魚谷屋オープン



魚谷浩店長

touhoku

「つなげよう 東北、日本、世界」

もの語る津波石の礎を!

永い時の経過と人々のこころの風化は、自然災害時に悲惨な被害と、癒し難い深い傷跡を遺す要因の一つとなっている。歴史上幾度となく津波襲来を経験した三陸沿岸地域には、数多くの「津波石」が建てられて居り、その数は200を超える。もの言わぬ石に刻まれた文言には、如何に文明、科学が進歩しようとも、津波に対して最も有効かつ、基本的な避難の在り方を伝えている。にも拘わらず、各地ではその存在すら知らない人達がほとんどだった。今、私達は昔日とは比すべくもない高性能、高汎用な情報伝達手段を有している。だが、操作し活用するのは、あくまでも人間です。自然災害時の避難の在り方と人命の尊さを伝える想いと、活動が無ければそれは宝の持ち腐れとなります。私は、今の活動を可能な限り続けることが「もの語る津波石」の礎となり、将来へ何らかの形態で継続されことを願っています。それが、何時の日にか再び襲来するであろう災害時に、尊い人命の犠牲を少しでも少なくすることの一助となることを切望しながら、語り部の活動を続けたい。

陸前高田市観光物産協会副会長 實吉義正



「震災後」の終わりに向けて

小さなことではあるのだが、先日うれしい光景を目にした。宮城県気仙沼にある気仙沼ニッティングの店舗で、京都の手芸糸専門店が糸の展示販売会を開いてくれたことだ。ふだんは東京など遠方からのお客さんが多いのだが、この日は京都から来た色とりどりの糸を目当てに、地元の人も多く訪れた。お客さんでごった返す店内で、ふと気づいた。一歩引いて見ると、だれが遠方からのお客さんで、だれが地元の人なのか区別がつかない。みんな楽しそうで、うきうきとカラフルな糸を選んでいる。しみじみと、うれしく思った。「震災後」という時間が終わりに向かいつつあることを感じた。少し前まで、こうした光景を見ることはほとんどなかった。地元の人、それぞれではなかったのだと思う。東日本大震災後、この地域の人々はみな「非常事態」を生きていた。先行きが不透明な中で、どこに住むか、どうやって生計を立てていくかなど、現実的な課題で精いっぱいだったはずだ。それがいまは、おしゃれして出かけ、趣味の買い物を楽しむような余裕が生まれてきた。それだけ、生活も心も、落ち着いてきたということだろう。また、震災から長らくの間、外から来た人と地元の人、支援する人「支援される人」の関係にあった。その立場がだんだん消えて、こうして同じものを一緒に楽しめるようになってきている。気仙沼を「楽しむ」ことを目的とする人が、外から来てくれているということでもある。まだまだ課題はあるとはいえ、いずれ「震災後」という期間は終わり、こゝも「被災地」ではなくなるだろう。そのときに、人の行き来が途絶えぬように、人に楽しみに来てもらえるものを用意していきたいと、あらためて思うのだった。

気仙沼ニッティング社長 御手洗瑞子

【2017年9月8日毎日新聞より】

難波三津子様

メイプル・ニュースを受け取りました。小生も故郷・福島県のためロンドンから頑張っております。2018年も引き続きご支援をお願いします。満山喜朗(ロンドン・しゃくなげ会代表)



高橋社長(福島民報社) ジョーンズ 満山
◎英国庭園(福島県本宮市晴沢)開園式にて記念植樹
◎ラグビー・イングランド代表監督エディー・ジョーンズさんの福島県に尽力。記念講演会、歓迎交流会で親睦を深める

【2017年12月3日福島民報の記事より】



2008年にハロードリームが誕生してから十年目に入りました。この間、スマホによって私達の生活は激変しました。何が変わったと思いますか? 変化が激しすぎて、ついていくのが大変な時代です。

ミヒヤエルエンデ(ドイツ)が描いた「モモ」というお話があります。サブタイトルは「～時間泥棒と盗まれた時間を人間に返してくれた女の子のふしぎな物語～お読みになった方も多いのではないでしょうか。」

初めて読んだときは「哲学的だなぁ」と、難しさを感じましたがあらためて読んでみますと、、、まさに、今の時代の変化、忙殺されそうな毎日、何かに違和感を感じながらこのサイクルから抜けられず疲弊している自分に刺さるメッセージがあふれています。ぐっとくる名言もたくさんあります。

「人生は時間の経過のことではなく、心の中に残ったもの。」

ハロードリームの時間は、さまざまな方の想いやスタッフの努力、出会った方々に頂いた豊かな関わりで出来上がった思い出の層です。人生の素敵なかかけがえのないシーンが心の中にあふれています。

立ち上げた2008年、私は49歳でした。50代突入を前にして「素敵に60代のための10年に!」とっていました。抱負どおりの十年目、いつでも挑戦と感謝と本気の毎日だったのは皆さまのおかげです。

どうか、皆さまの心の中に残っていくものが、笑顔でキラキラかがやいていますように。

心からの感謝をこめて今日も笑顔で。 (代表理事 小巻 亜矢)

10年アリガトウ・プロジェクト

- 交流(スタート) Tシャツ・プロジェクトを出発点とし、文通等での交流を学校・団体単位で行う
- 直接交流(3年後) ホームステイ・ベースの留学及び、異文化交流等の直接交流を開始する
- 滞在型交流(10年目までに) 長期交換留学並びに東北に学ぶ場を設立し、異文化交流による双方の成長の機会を提供する



あれから10年

Dear Michi,

先日は本当にお会いできてうれしかったです。僕は将来的には政治も一つの手段として考えていますが、日本の外交のために生涯をささげたいと考えています。松下政経塾は全過程4年間のプログラムで、現在私は3年目です。自主研修活動の一環として笹川平和財団のスカラシップに応募しました。米国に来たのも、日米関係を日本の視点からだけでなく、米国の視点から見ることがあると考えたからです。

昼顔アンジェラ



どのような方法、手段にせよ、未来の日本が我々の子孫の誇りとなるよう活動していこうと思っていますので、私にできることがあれば何なりとお申し付けくださいね! 姉が出合わせてくれたご縁を大事に、ミッチーと一緒に活動できることをうれしく思います。

まずは、到着のご報告とお礼まで。またご連絡します。 深作光輝ヘスス(松下政経塾第36期生、故深作アンジェラの弟)